

(別記様式)

令和6年度 府立南山城支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(計画段階 ・ **実施段階**)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
1 安心して安全な教育環境を整え、組織的、計画的で効果的な学校経営を推進する。 2 いのち、健康及び人権の尊重を基本に、児童生徒一人一人の障害や教育的ニーズ等に応じた指導を充実する。 3 卒業後の自立と社会参加を目指して、児童生徒がそれぞれのライフステージでのキャリアを積めるよう、主体的に学び合う、質の高い授業づくりや教育活動を推進する。 4 医療、保健、福祉、労働及び教育の関係諸機関と連携し、児童生徒(保護者)の願いを基に、生涯にわたる一貫した支援を推進する。 5 センターの機能を発揮し、支援ネットワークの構築を通して、地域における特別支援教育の充実を図る。 6 地域に開かれ、地域と共にある特色ある学校づくりを進め、インクルーシブ教育を推進し、「共生社会の形成」に貢献する学校とする。	【組織・運営】 ・校務の業務内容を立案と学部への伝達にシフトさせることが可能となってきた。 ・学校安全については、階段から転落するという重大事案が発生しており、未然に防ぐ意識と事後の円滑な対応について課題があった。 ・車いすの児童生徒の避難経路や避難後の連絡方法について共有することができた。 ・医療的ケア実施可能な教員を増員できた。 ・緊急対応訓練では役割の確認などを進めることができたが、複数回の実施には至らなかった。 ・抽出クラスで流れ図作成を進めた。教員全体のアセスメント力・授業力向上が課題である。 ・ICT活用については、不登校生徒の学習保障など進めることができた。 【教育課程・学習指導】 ・授業者支援会議や懸け橋研究により授業作りや卒業後をイメージした12年間のつながりについて深めることができた。 ・ICT活用については、不登校生徒の学習保障など進めることができた。 ・成年年齢引き下げを意識した学習を進めることができた。今後は長期的な学習計画作成を進めていく必要がある。 【支援・地域連携】 ・地域資源や人的資源を学習に取り入れることができた。 ・校内外の相談員と連携し、地域のセンター的役割を果たすことができた。	1 いのち、安心・安全の重視と確保 (1)日常的な安全管理を確認・徹底し、災害や事故等の備えを整備する。 (2)医療的ケアの体制を充実し、適切に実施する。(安心サポート事業) 2 授業改善と教育課程の検討 (1)児童生徒の主体的・対話的な学び合いを大切に、個々の資質・能力の伸長を目指し、日常的な授業改善を進める。 (2)学習指導要領に基づきキャリア教育の視点を踏まえ、小中高の系統性のある教育課程の構築を進める。小学部6年間、中・高等部6年間のくくりでの教育課程編成について実践研究を継続するとともに、中・高連携の成果をもとに小学部、中学部、高等部の教育課程のつながりを意識した教育実践を進める。 (3)個々の児童生徒の実態把握に基づく指導内容の設定のプロセスを丁寧に行い、児童生徒が自立を目指し、学習上、生活上の困難を主体的に改善・克服する自立活動の充実を図る。 3 地域に開かれ、地域と共にある、特色ある学校づくり (1)社会とつながり、地域の教育的資源を活かした南山城ならではの教育活動を、学校運営協議会を活用し進める。地域に開かれた図書館「ほんの森」の実現、MINAMILABO 構想の再検討を通して特色ある学校づくりを推進する。 (2)児童生徒の姿や、取組・交流の成果を広く発信し、地域に根ざし期待される学校を目指す。 4 関係機関との連携による支援 (1)保健・福祉等の関係諸機関や保護者との連携のもと、特別支援学校が担うべき修学に係る支援を進める。(連携協議会との関連) (2)特別支援教育のセンター的役割をより効果的に果たすべく、地域支援センターの機能や運営、京都府南部視覚・聴覚支援センターとの連携等について改善・整理する。 5 組織的な学校運営と、働きがいのある職場づくり (1)第2期京都府教育振興プラン等京都府の施策を見据え、同時に「働き方改革」を踏まえて、円滑で機能的な学校運営に向け組織や業務改善を進める。 (2)学部を超えた「協働体」として、教職員間のコミュニケーションを図り、相互理解のもとに全教職員で全児童生徒の教育活動に当たる。 (3)時間外勤務の縮減、メンタル不全等の未然防止、職場復帰への支援など、職場環境や業務の改善におけた具体的方策を進める。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
組織運営	いのち、安心・安全を重視した学校運営を行う。	・個別の緊急対応訓練の複数回実施。 ・医療的ケア校内安全委員会での情報共有・ヒヤリハット事象の共有。 ・大規模災害を想定した避難訓練の実施。 ・生活安全学習への外部講師の積極的な活用。 ・SC・SSWなどの専門家との連携による課題への対応。	◎		・「緊急時対応訓練マニュアル」を「緊急時対応マニュアル」に改めることで、組織的に迅速な対応が図れるよう、『誰が見てもわかる』形での整理・改善をすることができた。 ・学校運営協議会を年4回実施し、今年度は各学部の授業を参観してもらうことで、児童生徒の学習活動に特化した視点で委員の皆様にご意見を伺うことができた。 ・今年度の9月より、「学校インスタグラム」を開設し、地域の方や保護者がより本校の情報を入手してもらいやすい環境を作り出せた。 ・スクールマネジメントプランに基づき、各学部では目指す生徒像を踏まえ、児童生徒及びクラスの状態に合わせた学習活動を検討・展開することができた。
	経営方針に基づく学校づくりを全教職員で進める。	・校務分掌と学部運営との連携の強化。 ・学校経営方針の基、学部の独自性の形成。	○		
	地域に開かれ、地域とともにある特色ある学校づくりを推進する。	・学校運営協議会との連携等、地域の声を生かした学校運営。 ・学校開放の実施やホームページ等を活用した情報発信。 ・地域支援センター及び南部視覚聴覚支援センターを中心とした南部地域の特別支援教育のセンター的役割。	○		
教育課程・学習指導	卒業後の自立と社会参加を目指した教育活動を展開する。	・小中連携を意識したカリキュラムマネジメントと教育実践の実施。 ・授業者支援会議・架け橋研究の継続。 ・地域資源を活用した授業の充実。 ・成年年齢の引き下げを念頭に置いた系統的な学習の実施。 ・ICTの有効活用による学びとつながりの保障。 ・図書活動の充実。	○		・小中連携、中高連携を軸に、12年間のつながりを意識した活動を推進し、先輩への憧れ、自分自身への誇りにつなげることができた。 ・地域連携推進部と各学部が連携を図りながら地域の方を講師として招いたり、地域の方と一緒に作業したりと、積極的に地域リソースを活用した授業を実施することができた。 ・財団からの助成金を活用のおかげで、「ほんの森」をリニューアルし、蔵書の数や読書スペースなど、学校図書館を充実させる取組を大きく進めることができた。 ・研究プロジェクトでは、自立活動に取り組んだが、活動のわかりにくさや機能的な情報発信ができず、教職員全員の理解につなげることができなかった。
	自立活動をテーマとした全校研究を推進する。	・研究プロジェクトを中心とした、児童生徒のアセスメント及び授業作りに関わる研究活動の実施。	△		

学校関係者 評価委員会 による評価	・学校施設の経年劣化による児童生徒の安全確保を徹底し、保護者にも安心していただけるよう対応を図ることが必要である。 ・自立活動は、教育の基盤として重要である。そのため、自立活動を研究として推進している取組については評価している。単年で終わることなく、次年度も継続して取り組んでほしい。
-------------------------	---

次年度に向けた改善の方向性	・次年度に実施予定の「3本柱（①45周年記念 ②防災・安全教育 ③自立活動）」のプロジェクトを軸に、チーム南山城として教職員が一丸となって目標に向かって進んでいけるような企画・運営を図る。 ・情報の取り扱いには、今後も十分に注意し、個人情報管理、情報モラルについて徹底する意識を教職員全員がもつ。 ・次年度も地域リソースの積極的な活用を進めるとともに、交流及び共同学習や居住地校交流の内容を精査し、より充実したインクルーシブ教育の実践を推進し進める。
---------------	---

